

PIERIA 美術イタリア語文法講座 レベル1 第3課

3.1. 不定冠詞

不定冠詞は、ひとまず英語の **a, an** のようなものと考えておいてください。

つまり、聞き手に話し手の指すものが了解されていないときに、その名詞の前につける冠詞です。イタリア語の不定冠詞の形態は次のとおりです。形から想像されるように、もともとは数詞の「1」が弱まってできた語です。

男性	単子音で始まる名詞の前 (標準形)	un	un ragazzo (男の子)
	母音で始まる名詞の前	un	un amico (友達)
	連続した子音で始まる名詞の前*	uno	uno studente (学生)
女性	子音で始まる名詞の前 (標準形)	una	una ragazza (女の子)
	母音で始まる名詞の前	un'	un'amica (女友達)

美術用語で例を見てみましょう。

un museo (美術館)	un castello (城)
un abbozzo (下絵)	un altare (祭壇)
uno studio (アトリエ、習作)	uno scultore (彫刻家)
una mostra (展示会)	una bottega (工房)
un'esposizione (展示)	un'accademia (学院)

* これらの原理は定冠詞のところでお話ししたことと同様です。un の後に2つの子音で始まる名詞が来ると、3つの子音を連続して発音しなければならず、これが読みくいために、「古形」の uno が用いられます。

著名な人物の名前がその作品を表すことがあります。その場合、不定冠詞を付けることが可能です。

un Raffaello (ある1枚のラファエロの絵)

3.2. 冠詞の機能

定冠詞と不定冠詞の機能を大ざっぱに説明すると、下記のようになります。

定冠詞 (il, la)	話者が「聞き手は特定できる」が考えている物
不定冠詞 (un, una)	話者が「聞き手は特定できない」と考えている物

これを日本語で考えてみましょう。

昨日 ある画材屋 に行ったのだが、品ぞろえ はいいし、接客 は丁寧だしとても気に入った。店主 は昔フィレンツェで絵画を学んでいたそうだ。

この場合、ある画材屋 は聞き手にとってイメージされていないので不定冠詞が付きます。品揃え、接客、店主 は「その画材屋の」というイメージができあがっていますから、定冠詞がつくわけです。(このようなイメージの固定を「特定化」と呼びます。)

わかりにくい場合は、ひとまず英語の定冠詞 **the** に対応するのが **il**、不定冠詞 **a** に対応するのが **un** だと考えておくとよいでしょう。実際には、英語に比べて定冠詞を積極的に用いるなどの違いがあるので、例文を読みながら観察を続けてください。

(略)

練習問題 (3)

I 次の単語の意味を調べ、不定冠詞と定冠詞を書きなさい。

		意味	不定冠詞	定冠詞
1	palazzo			
2	galleria			

(略)

II 次のイタリア語を日本語に訳しなさい。

- 1) Ecco il duomo.
- 2) Il libro è sotto la tavolozza.

(略)

III 伊作文

- 1) ほらここに鉛筆が一本あります。
- 2) その画廊 (galleria) は学校 (scuola) の裏に (dietro) あります。

(略)

【コラム 3 : 画家のあだ名 ②】

出身地以外の、職業や外見、性格に由来するあだ名を紹介します。

名詞に-ino や-etto といった接尾辞を付けたものが多くみられます。接尾辞を知っておくと、語感が鋭くなります。ここに挙げられている物だけでも覚えておくとよいでしょう。

ティントレット (Tintoretto 本名 : Jacopo Robusti)

tintoretto という言葉は、tintore 「染物屋」に縮小辞-etto がついたもの。彼の父親が染物屋だったことからこう呼ばれるようになりました。さしずめ、「染物屋の小僧」といったところですか。

(略)